

# 2015 年度事業活動報告書



2016 年 5 月

一般財団法人 福岡ユネスコ協会

## ユネスコ憲章前文

この憲章の当事国政府は、その国民に代って次のとおり宣言する。

戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。

相互の風習と生活を知らないことは、人類の歴史を通じて世界の諸人民の間に疑惑と不信をおこした共通の原因であり、この疑惑と不信のために、諸人民の不一致があまりにもしばしば戦争となった。

ここに終わりを告げた恐るべき大戦争は、人間の尊厳、平等、相互の尊重という民主主義の原理を否認し、これらの原理の代りに、無知と偏見を通じて人間と人類の不平等という教義をひろめることによって可能とされた戦争であった。

文化の広い普及と正義・自由・平和のための人類の教育とは、人間の尊厳に欠くことのできないものであり、かつ、すべての国民が相互の援助及び相互の関心の精神をもって果たさなければならない神聖な義務である。

政府の政治的及び経済的取極のみに基く平和は、世界の諸人民の一致した、しかも永続する誠実な支持を確保できる平和ではない。よって、平和は、それが失われないためには、人類の知的及び精神的連帯の上に築かなければならない。

これらの理由によって、この憲章の当事国は、すべての人に教育の充分で平等な機会が与えられ、客観的真理が拘束を受けずに探究され、かつ、思想と知識が自由に交換されるべきことを信じて、その国民の間における伝達の方法を発展させ及び増加させること並びに相互に理解し及び相互の生活を一層真実に一層完全に知るために、この伝達の方法を用いることに一致し及び決意している。

その結果、当事国は、世界の諸人民の教育、科学及び文化上の関係を通じて、国際連合の設立の目的であり、かつ、その憲章が宣言している国際平和と人類の共通の福祉という目的を促進するために、ここに国際連合教育科学文化機関を創設する。

## 1. 福岡ユネスコ文化講演会

(1)テーマ：「新興アジアをどう見るか？ 4つの視点」

講師：末廣 昭(すえひろ・あきら)氏

日時：2015年7月11日(土) 14:00～16:00

会場：天神ビル10号ホール(福岡市中央区天神)

参加者：60人

**【企画意図】**：経済発展が著しいアジア諸国は若くて躍動する地域との認識があったが、アジアの変化のスピードは速く、経済的には世界の生産地から消費地へと変化するとともに、社会的にも少子高齢化が進み、将来にかけて「若いゆくアジア」や「疲弊するアジア」として明るくない未来も予想され始めている。中国経済が大きな影響力を及ぼしつつある現在のアジア経済を全般的に見渡すとともに、今後の日本の果たせる役割等について考える。

講師略歴：1951年生まれ。東京大学社会科学研究所教授

専門は開発経済学、アジア経済論

東京大学大学院経済学研究科を終了後、アジア経済研究所研究員。タイ・チュラーロンコーン大学客員研究員、大阪市立大学経済研究所助教授を経て東京大学社会科学研究所助教授。95年から現職。

主な著書・編著書：『タイ 開発と民主主義』(岩波新書、1993年)『タイ 中進国の模索』(岩波新書、2009年)『キャッチアップ型工業化論—アジア経済の軌跡と展望』(名古屋大学出版会、2000年)『進化する多国籍企業—いま、アジアでなにが起きているのか?』(岩波書店、2003年)『ファミリービジネス論—後発工業化の担い手』(名古屋大学出版会、2006年)『新興アジア経済論—キャッチアップを超えて—』(岩波書店、2014年)



(講演) 末廣 昭氏

# 福岡ユネスコ文化講演会

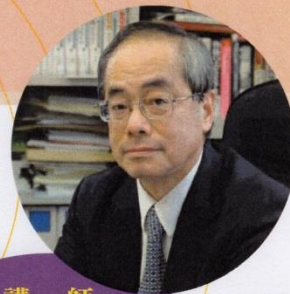
経済発展が著しい新興アジア諸国は、世界の生産地から消費地へと変化しています。アジア社会の変化のスピードは速く、若くて躍動するこの地域も少子高齢化が進み、将来的には老い、疲弊していくことが予想され始めています。中国経済が大きな影響力を及ぼしつつある現在のアジアを経済的、社会的に捉えなおすとともに、今後日本が果たせる役割についても考えてみます。



テーマ

## 新興アジアをどう見るか？ 4つの視点

# ASIA



講師

末廣 昭 (すえひろ・あきら) 氏

1951年鳥取県生まれ。  
東京大学社会科学研究所教授  
専門は開発経済学、アジア経済社会論  
東京大学大学院経済学研究科を修了後アジア  
経済研究所、タイ・チュラーロンコーン大学客  
員研究員、大阪市立大学を経て現職。  
主な著書・共著書：『タイ 開発と民主主義』  
『キャッチアップ型工業化論—アジア経済の軌  
跡と展望』（アジア太平洋賞大賞受賞）『進化す  
る多国籍企業—いま、アジアでなにが起きている  
のか？』『新興アジア経済論—キャッチアップ  
を超えて』など

2015年

7月11日(土) 13:30~16:00  
天神ビル10号ホール  
(福岡市中央区天神2丁目、定員200人)

料金

一般:事前申込 1,000円(当日1,200円)  
学生・留学生 500円(事前・当日とも)

申込み方法

催し名(「末廣昭講演会」)、氏名(参加者全員)、連絡先  
FAXまたはメールアドレス、一般/サポーター/学生等  
の別を明記の上、メールかFAXで申し込んでください。

●メールアドレス: fuunesco2014@gmail.com  
●FAX: 092-733-1291

主催・問い合わせ先

一般財団法人  
福岡ユネスコ協会 (平日10~17時)

福岡市中央区薬院2丁目4-5-702 TEL: 092-715-8768  
URL <http://fukuoka-unesco.or.jp>



(2) テーマ：「東山彰良の小説世界」

講師：東山彰良（ひがしやま・あきら）氏

トークショー聞き手：塚崎謙太郎（つかざき・けんたろう）氏

日時：2016年 2月24日（水）14：00～16：00

会場：ウェルとばた・戸畑市民会館中ホール（北九州市戸畑区汐井町）

共催：北九州市

参加者：141人

【企画意図】：『流』により2015年上半期の直木賞を受賞した東山彰良さんは、台湾で生まれて福岡で育った現在注目の作家である。

『このミステリーがすごい！』大賞銀賞を受賞したデビュー作『逃亡作法 -TURD ON THE RUN』ではミステリーを、『路傍』ではハードボイルド小説を、そして直木賞授賞作『流』では自分の家族の実話に基づく作品を、とそれぞれジャンルの異なる作品を書きわけて活躍する東山彰良さんの小説世界をトークにより探っていくもの。

講師略歴：1968年台湾生まれ。作家

5歳まで台北で過ごし、その後日本へ移る。福岡市で育ち、西南学院大学経済学研究科修士課程修了。大学で中国語の教師も務めている。

2002年、「タード・オン・ザ・ラン」で第1回「このミステリーがすごい！」大賞銀賞・読者賞を受賞。2003年に同作を改題した『逃亡作法 TURD ON THE RUN』で作家デビュー。2009年『路傍』で第11回大藪春彦賞、2015年『流』で第153回直木賞を受賞した。西日本新聞に「熱風映劇（シネマ・サンタナ）」を長期連載した。

聞き手の略歴：1969年久留米市生まれ。

西日本新聞文化部デスク。1993年西日本新聞社に入社。大牟田、長崎、甘木の各支局、社会部などを経て、2006年から文化部に勤務し現在に至る。



塚崎謙太郎氏と対談を行う東山彰良氏

福岡ユネスコ文化講演会 & トークショー

2015年上半期  
直木賞受賞

# 東山彰良の 小説世界

『流』により2015年上半期の直木賞を受賞した東山彰良さんは、台湾で生まれて福岡で育ちました。

『このミステリーがすごい!』大賞銀賞を受賞したデビュー作『逃亡作法 TURD ON THE RUN』ではミステリーを、『路傍』ではハードボイルド小説を、そして直木賞授賞作『流』では自分の家族の実話に基づく作品を、とそれぞれジャンルの異なる作品を書きわけて活躍する東山彰良さんの小説世界をトークにより探っていきます。事前に皆さんからいただいた質問にもお答えいただきます。

[日時] 2016年

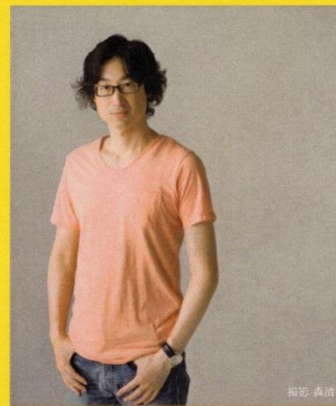
**2月24日(水)**  
14:00~16:00

[場所] ウェルとぼた  
戸畑市民会館 中ホール

JR 戸畑駅下車南口から徒歩1分 (戸畑区汐井町 1-6)  
TEL093-871-7200

[入場料] **無料** (事前申込みが必要です)

[定員] **300名** (申込み多数の場合は抽選とさせていただきます)



撮影 森清

東山 彰良 (ひがしやま・あきら) 氏

1968年台湾生まれ。5歳まで台北で過ごした後、9歳の時に日本に移る。福岡県在住。2002年、『タード・オン・ザ・ラン』で第1回『このミステリーがすごい!』大賞銀賞・読者賞を受賞。2003年、同作を改題した『逃亡作法 TURD ON THE RUN』で作家デビュー。2009年『路傍』で第11回大蔵春彦賞、2015年『流』で第153回直木賞を受賞。

トークショー聞き手

塚崎 謙太郎 氏

西日本新聞文化部長デスク

申込み  
方法

郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・年齢・電話番号・参加人数(同時申込み3人まで)と東山さんへの質問があれば記入のうえ、往復ハガキでお申し込み下さい。  
締切:平成28年2月5日(金)必着

返信ハガキの表面には、返信先住所・氏名を記入し裏面には何も書かないで下さい。

申込み  
問合せ先

〒803-8501 北九州市小倉北区内1-1  
北九州市市民文化スポーツ局文化部文化企画課内

「福岡ユネスコ講演会」係

**Tel.093-582-2391**

主催：一般財団法人 福岡ユネスコ協会 / 北九州市

## 2. 福岡ユネスコ・アジア文化講演会

**目 的：**福岡市が他都市に先駆けて長年取り組んできている、福岡市のアジア施策の柱の一つである「福岡アジア文化賞」の過去の受賞者を招聘して、その人の最新の研究成果や現代の日本人が課題として共有できるようなテーマでご講演いただき、質の高い文化情報を福岡から発信するもの。福岡市教育委員会、映像ホール・シネラ実行委員会との共催事業

**日 時：**2015年11月14日（土）13：30～17：00

**会 場：**電気ビル共創館3階 共創館カンファレンス大会議室  
(福岡市中央区渡辺通2丁目)

**参加者：**120人

**内 容：**

(1) テッサ・モーリス＝スズキ氏による講演 (13：40～14：40、日本語)

テーマ：「生きている歴史、繋ぐ記憶」

(2) 対談 (14：55～16：25、日本語)

講演後に、テッサ・モーリス＝スズキ氏と姜尚中氏（東京大学名誉教授）と対談を行い、講演のテーマについて話を深めます。

(3) サイン会 (16：30～)

(4) 講 師

テッサ・モーリス＝スズキ氏 ( Tessa MORRIS-SUZUKI、オーストラリア国立大学太平洋アジア研究学院教授)

対談相手は姜尚中氏 (かん・さんじゅん、東京大学名誉教授)

・講師略歴

①テッサ・モーリス＝スズキ ( Tessa MORRIS-SUZUKI) 氏

1951年イギリス生まれ。イギリス・バース大学博士号取得。現在、オーストラリア国立大学太平洋アジア研究学院教授。ハワイ大学東西センター客員フェロー、東京大学客員研究員、早稲田大学高等研究所客員教授など国外での研究教育活動も多い。

主な著書に”The Technological Transformation of Japan”、『辺境から眺める』『批判的想像力のためにーグローバル時代の日本』『過去は死なない』『北朝鮮へのエクソダス』『日本を再発明する』

②姜尚中 (カン・サンジュン、Kang Sang-jung) 氏

1950年、熊本県生まれ。早稲田大学大学院政治学研究科博士課程修了。国際基督教大学助教授・準教授、東京大学大学院情報学環・学際情報学府教授、聖学院大学学長などを経て、現在東京大学名誉教授。専攻は政治学、政治思想史。

主な著書に『マックス・ウェーバーと近代』『オリエンタリズムの彼方へ』『ナショナリズム』『東北アジア共同の家をめざして』『増補版 日朝関係の克服』『在日』『姜尚中の政治学入門』『愛国の作法』『悩む力』など。



共著にテッサ・モーリス＝スズキとの『民主主義の冒険』の他『グローバル化の遠近法』『ナショナリズムの克服』『戦争の世紀を超えて』など。編著に『在日一世の記憶』など。小説『母-オモニー』『心』を刊行。

- (5) 主催：一般財団法人 福岡ユネスコ協会
- 共催：福岡市教育委員会
- 協力：福岡アジア文化賞委員会



(講演) テッサ・モーリス＝スズキ氏



姜尚中氏と対談



# 平成27年度 福岡ユネスコ・アジア文化講演会

第24回福岡アジア文化賞 学術研究賞受賞者  
テッサ・モーリス＝スズキ氏、11月に来訪！

2015年11月14日(土) 13:30～17:00 (13:00開場)

電気ビル共創館3階 共創館カンファレンス 大会議室(福岡市中央区渡辺通2-1-82)

**講演** テーマ:「生きている歴史、繋ぐ記憶」(13:40～14:40、日本語)

歴史とは何か、また歴史を現在に生きるとはどのようなことなのかについて、戦後70年目のいま、あらためて考えてみます。

**講演者:**テッサ・モーリス＝スズキ氏(2013年福岡アジア文化賞 学術研究賞受賞者)



1951年イギリス生まれ。イギリス・バース大学博士号取得。現在、オーストラリア国立大学太平洋アジア研究学院教授。

民族や国家の国境を越え、新しい地域協力や市民社会のあり方を構想するアジア地域研究者として、ハワイ大学東西センター客員フェロー、東京大学客員研究員など国外での研究教育活動も多い。

主な著書に、「The Technological Transformation of Japan」、『辺境から眺める』『批判的想像力のためにーグローバル時代の日本』『過去は死なない』『北朝鮮へのエクソダス』『日本を再発明する』など。

**対談** 姜尚中氏(東京大学名誉教授)との対談(14:55～16:25)

対談により、講演のテーマをさらに深めていきます。



1950年熊本県生まれ。早稲田大学大学院政治学研究科博士課程修了。国際基督教大学助教授・准教授、東京大学大学院情報学環・学際情報学府教授、聖学院大学学長などを経て、現在東京大学名誉教授。専攻は政治学、政治思想史。

主な著書に『マックス・ウェーバーと近代』『オリエンタリズムの彼方へ』『ナショナリズム』『東北アジア共同の家をめざして』『増補版 日朝関係の克服』『在日』『姜尚中の政治学入門』『愛国の作法』『悩む力』など多数。その他、テッサ・モーリス＝スズキ氏との共著『デモクラシーの冒険』などもある。

## 入場料

一般:事前申込1,000円(当日1,200円)  
学生・留学生:500円

※ただし、定員に達した場合は当日の参加申し込みはお受けできません。

## 受付期間

2015年10月1日～11月6日(必着)

※ただし、定員(180名)になり次第締め切らせていただきます。

## 申し込み方法

参加ご希望の方は事前に、講演会名、お名前、一般か学生の別、連絡先(メールアドレスかFAX番号)を明記の上、右記申し込み先にメールかFAXで申し込んでください。

## 申し込み先

一般財団法人 福岡ユネスコ協会

メールアドレス: fuunesco2014@gmail.com  
FAX: 092-733-1291

主催: 一般財団法人福岡ユネスコ協会、共催: 福岡市教育委員会、協力: 福岡アジア文化賞委員会

### 3. 福岡ユネスコ国際文化セミナー

テーマ：「日韓メモリー・ウォーズ ―日本人は何を知らないか―」

日時：2016年3月19日（土） 10：30～17：00

会場：電気ビル共創館3階 カンファレンス大会議室  
（福岡市中央区渡辺通）

参加者：131人

**【企画意図】**：2015年は戦後70年であると同時に日韓国交正常化から50年が経過する特別な年でもある。現在、日本と韓国との間では「竹島・独島」「慰安婦」「靖国」そして「教科書」の問題を巡って対立が続いており、両国の積極的な交流を妨げている。これらの問題は国家間の政治的な問題であるが、これらの問題が創り出しているそれぞれの国に対する国民のイメージが悪い方向（「嫌韓」、「反日」）に増幅していくことにより、一時期近づいていた両国関係が再び遠い関係になりつつある。そのような現況の中で、今後、両国間に存在する問題をきちんと認識した上で、隣国として、友好的で冷静な相互理解を育むために、市民レベルでどのようなことができるのかについて考えてみるもの。

内 容：

(1) 特別講演

朴裕河（パク・ユハ）氏（韓国・世宗大学国際学部教授）・・・ 10：40～12：00  
テーマ：「『帝国』から見た日韓関係 ― 暴力の構造」

(2) パネルディスカッション・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13：00～

① パネルディスカッションの趣旨及び論点の説明・・・・・・・・・・ 13：00～13：15  
コーディネーター：上野千鶴子氏（うえの・ちづこ、東京大学名誉教授）

② 発表（各人40分）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13：15～14：40  
・金成玟（キム・ソンミン）氏（北海道大学大学院准教授）  
「戦後韓国における日本論・日本人論・日本文化論の変容」  
・水野俊平氏（みずの・しゅんぺい、北海商科大学教授）  
「若い世代の認識ギャップとメディアリテラシーの必要性について」

③ コメント 朴裕河・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14：40～14：55

④ 討 議・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15：05～17：00  
コーディネーター：上野千鶴子氏

・講師略歴

①上野千鶴子氏：1948年富山県生まれ。東京大学名誉教授、認定NPO法人ウィメンズアクションネットワーク（WAN）理事長。

京都大学大学院文学研究科社会学専攻博士課程修了

専門は家族社会学、女性学、ジェンダー論。

著書：『近代家族の成立と終焉』（サントリー学芸賞）『ナショナリズムとジェンダー』『差異の政治学』『生き延びるための思想』『おひとりさまの老後』『戦争が遺したもの―鶴見俊輔に戦後世代が聞く』（共著）をはじめ多数。

②朴裕河氏：1957年ソウル生まれ。韓国・世宗大学国際学部教授

慶應義塾大学文学部卒業。早稲田大学大学院で博士号取得

専門は日本近代文学。ナショナリズムを超えての対話の場「日韓連帯 21」に続き、「東アジアの和解と平和の声」を立ち上げ、市民対話の場づくりに取り組んでいる。

著書：『反日ナショナリズムを超えて—韓国人の反日感情を読み解く』（日韓文化交流基金賞）『和解のために』（大佛次郎論壇賞）『帝国の慰安婦／植民地支配と記憶の闘い』（石橋湛山記念早稲田ジャーナリズム大賞、アジア太平洋賞特別賞）など。

③水野俊平氏：1968年北海道生まれ。北海商科大学教授。

天理大学朝鮮学科卒業。韓国・全南大学校大学院博士課程修了

専門は韓国語（朝鮮語）学。19世紀末～20世紀初頭の地図に記された地名を手がかりとして朝鮮語古語の研究にも従事している。

著書：『ソウルで学ぼう』『韓国の若者を知りたい』『韓国の歴史』『庶民たちの朝鮮王朝』など。

④金成玫氏：1976年ソウル生まれ。北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院准教授。

ソウル大学校言論情報学科修士課程修了。東京大学大学院学際情報学府博士課程修了

専門はメディア文化研究

著書：『戦後韓国と日本文化—「倭色」禁止から「韓流」まで』『文化社会学の条件—二〇世紀日本における知識人と大衆』（共著）『越境するメディアと東アジア—リージョナル放送の構築に向けて』（共著）

### （3）著書サイン会



朴裕河氏による特別講演



コーディネーター上野千鶴子氏による論点説明





パネリスト金成孜氏と水野俊平氏



パネリストによる討議

# 福岡ユネスコ国際文化セミナー

## 日韓メモリー・ウォーズ

### —日本人は何を知らないか—



清水梅子撮影

2015年は戦後70年であると同時に日韓国交正常化から50年の特別な年でもありました。長く日本と韓国との間では「竹島・独島」「慰安婦」「靖国」そして「教科書」の問題を巡って対立が続き、両国の積極的な交流を妨げてきました。国家間の政治的な問題でありながら、これらの問題が創り出してきた相互の国民に対する悪いイメージ（「嫌韓」、「反日」）が増幅してきたことにより、一時期近づいていた両国民の関係が再び遠ざかったようにも見えます。

近現代の歴史を踏まえて、いま両国間にある問題を正確に見つめながら、隣国として、友好的で冷静な相互理解を育むために今後市民レベルでどのようなことができるのか考えてみます。

コーディネーター

上野千鶴子氏

東京大学名誉教授、認定NPO法人ウィメンズアクションネットワーク(WAN)理事長。  
専門は家族社会学、女性学、ジェンダー論。  
著書：『近代家族の成立と終焉』（サンクローヤ学芸賞）『フェミニズムとジェンダー—『構造主義の冒険』のひとりさまの老後』『戦争が遺したモノ—聽見復讐に戦後世代が聞く』（共著）をはじめ多数。

朴裕河氏による特別講演 (10:40~12:00)

## 「〈帝国〉から見た日韓関係」

パネルディスカッション (13:00~17:00)



朴裕河 (パク・ユハ)氏

韓国、世宗大学国際学部教授。専門は日本近代文学、フェミニズムを超えての対話の場『日韓連帯21』に続き、市民対話の場『東アジアの和解と平和の声を立ち上げる』。著書『反日ナショナリズムを超えて—韓国人の反日感情を読み解く』(日韓文化交流基金賞)『和解のために』(大佛次郎論壇賞)『帝国の慰安婦—植民地支配と記憶の闘い』(石橋湛山記念早稲田ジャーナリズム大賞、アジア太平洋賞特別賞)など。



水野俊平氏

北海道立大学教授。専門は韓国語(朝鮮語)学。19世紀末~20世紀初頭の地図に記された地名を手がかりとして朝鮮語古語の研究に従事している。  
著書：『ソウルで学ぼう』『韓国の若者を知りたい』『韓国の歴史』『市民たちの朝鮮王朝』など。



金成玟(キム・ソンミン)氏

北海道立大学大学院メディア・コミュニケーション研究科准教授。専門はメディア文化研究。  
著書：『戦後韓国と日本文化—「徳色」禁止から「韓流」まで』『文化社会学の条件—20世紀日本における知識人と大衆』(共著)『越境するメディアと東アジア—リージョナル放送の構築に向けて』(共著)など。

2016年

3月19日(土) 10:30~17:00

電気ビル共創館3階  
カンファレンス大会議室

(福岡市中央区渡辺通、定員180人)

料金

一般:事前申込 1,500円(当日1,700円)

学生・留学生 1,000円(事前・当日とも)

申込み方法

催事名(「日韓セミナー」、氏名(参加者全員)、連絡先FAXまたはメールアドレス、一般/サポーター/学生の別を明記の上、メールかFAXで申し込んでください。

●メールアドレス: fuunesco2014@gmail.com

●FAX: 092-733-1291

主催・問い合わせ先

一般財団法人  
福岡ユネスコ協会 (平日10~17時)

福岡市中央区薬院2丁目4-5-702 TEL:092-715-8768  
URL <http://fukuoka-unesco.or.jp>



## 4. 福岡ユネスコ研究講演会

**目的：**九州出身あるいは九州で活躍している研究者の日頃の研究内容を市民向けに少しわかり易い形で講演してもらい、その講演録をブックレット化することにより、地元研究者と市民の接点を作るとともに研究者とのネットワークづくりを進めるもの。

**テーマ：**「宗教とは何かー日本から世界を見る」

**講師：**関 一敏氏（せき・かずとし、九州大学名誉教授）

**期 日：**2015年12月12日（土）13：30～16：00

**会 場：**天神ビル10号ホール（福岡市中央区天神2丁目）

**参加者：**120人

**【企画意図】：**中東を中心に勢力を拡張し始めたISIL（自称イスラム国）の問題をはじめとして、最近のニュースで宗教に関係する報道が目に入らない日はない。キリスト教徒やヒンズー教徒とイスラム教徒の争いなど、世界各地で宗教をきっかけにした紛争も数多く発生している。

一神教と多神教の違いとは？世界宗教と比較した日本人の宗教観とは？など、日常生活でふと感じる疑問から宗教の根源である「信じる」とは一体どういう行為なのかまで、少し立ち止まって「宗教とは何か」について考えてみるもの。

**講師略歴：**1949年神奈川県生まれ。

東京大学大学院人文科学研究科博士課程、パリ大学IV博士課程修了。筑波大学助教授、九州大学教授を経て現在九州大学名誉教授。福岡市史編集委員。

主な著書・編著書に『聖母の出現ー近代フォーク・カトリシズム考』『宗教人類学入門』『中山みき・その生涯と思想』『民俗のことば（現代民俗学の視点）』『岩波講座 宗教』（全10巻）



（講演） 関 一敏氏



## 福岡ユネスコ講演会

### テーマ

# 「宗教とは何かー日本から世界を見る」

中東を中心に勢力を拡張し始めたISIL(自称イスラム国)の問題をはじめとして、最近のニュースで宗教に関する報道が目に入らない日はありません。キリスト教徒やヒンズー教徒とイスラム教徒の争いなど、世界各地で宗教をきっかけにした紛争も数多く発生しています。

一神教と多神教の違いとは？世界宗教と比較した日本人の宗教観とは？など、日常生活でふと感じる疑問から宗教の根源である「信じる」とは一体どういう行為なのかまで、少し立ち止まって「宗教とは何か」について考えてみます。

### 講師

関一敏 氏 (せき・かずとし、九州大学名誉教授)

1949年神奈川県生まれ。東京大学大学院人文科学研究科博士課程、パリ大学IV博士課程修了。筑波大学助教授、九州大学教授を経て現在九州大学名誉教授。福岡市史編集委員。NPO法人ウェルビーイング附属研究所主席研究員。主な著書・編著書に『聖母の出現ー近代フオーク・カトリシズム考』『宗教人類学入門』『中山みき・その生涯と思想』『民俗のことは(現代民俗学の視点)』『岩波講座宗教』(全10巻)



# 「宗教とは何か」

2015年  
**12月12日(土) 13:30~16:00**

**天神ビル10号ホール**  
(福岡市中央区天神2丁目、定員180人)

### 料金

一般:事前申込 1,000円(当日1,200円)  
学生・留学生 500円(事前・当日とも)

### 申込み方法

催し名(「関一敏講演会」、氏名(参加者全員)、連絡先FAXまたはメールアドレス、一般/サポーター/学生の別を明記の上、メールかFAXで申し込んでください。

- メールアドレス: fuunesco2014@gmail.com
- FAX: 092-733-1291

主催・問い合わせ先 一般財団法人  
**福岡ユネスコ協会** (平日10~17時)

福岡市中央区薬院2丁目4-5-702 TEL:092-715-8768  
URL <http://fukuoka-unesco.or.jp>

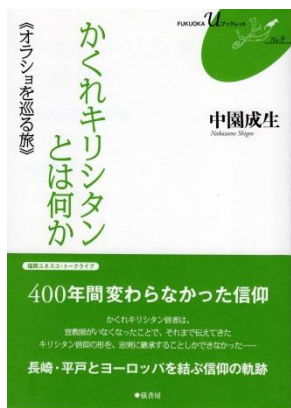
## 5. ブックレット等の出版物の刊行

当協会で開催する文化講演会の講演内容や活発な討論の記録を広く伝えるためにブックレット形式の「FUKUOKA U ブックレット」シリーズとして、また文化セミナーについても単行本として地元の出版社弦書房から発刊し、全国の一般書店で販売することにより、当協会の継続的な活動を紹介している。

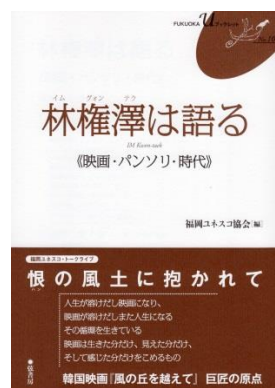
第9号 中園成生著『かくれキリシタンとは何か 《オラシヨを巡る旅》』  
(2015年10月30日発行)

第10号 福岡ユネスコ協会編『林権澤は語る 《映画・パンソリ・時代》』  
(2015年12月25日発行、昨年度予算分)

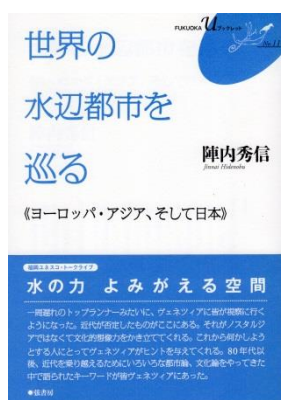
第11号 陣内秀信著『世界の水辺都市を巡る 《ヨーロッパ・アジア、そして日本》』  
(2016年3月30日発行)



ブックレット第9号



ブックレット第10号



ブックレット第11号

# 一般財団法人福岡ユネスコ協会略年表 (3) <通算 51>

— 2015 年 4 月～2016 年 3 月 —

## 2015 年

(平成 27 年)

- 5 月 20 日 (水) 第 1 回理事会開催  
於：福岡市中央区渡辺通  
「電気ビル共創館」カン  
ファレンス E 会議室
- 5 月 29 日 (金) 定時評議員会開催  
於：福岡市中央区渡辺通「電  
気ビル本館」第 1 会議室
- 7 月 11 日 (土) **福岡ユネスコ文化講演会**  
講師：末廣 昭氏 (東京大学社会科学研究所教授)  
テーマ：「新興アジアをどう見るか? 4つの視点」  
於：福岡市中央区天神  
天神ビル 10 号ホール
- 11 月 4 日 (水) 第 2 回理事会  
於：福岡市中央区渡辺通  
「電気ビル共創館」カン  
ファレンス D 会議室
- 11 月 14 日 (土) **福岡ユネスコ・アジア文化講演会**  
講師：テッサ・モーリス＝スズキ氏 (オーストラリ  
ア国立大学太平洋アジア研究学院教授)  
テーマ：「生きている歴史、繋ぐ記憶」  
対談相手：姜尚中氏 (東京大学名誉教授)  
於：福岡市中央区渡辺通  
「電気ビル共創館」カン  
ファレンス 大会議室
- 12 月 12 日 (土) **福岡ユネスコ研究講演会**  
講師：関一敏氏 (九州大学名誉教授)  
テーマ：「宗教とは何か ― 日本から世界を見る」  
於：福岡市中央区天神  
天神ビル 10 号ホール

## 2016 年

(平成 28 年)

- 2 月 24 日 (水) **福岡ユネスコ文化講演会&トークショー(北九州市)**  
講師：東山彰良  
テーマ：「東山彰良の小説世界」  
トークショー聞き手：塚崎謙太郎氏 (西日本新聞文  
化部デスク)  
於：北九州市戸畑区汐井町  
「ウエルとばた・戸畑市  
民会館」中ホール
- 3 月 19 日 (土) **福岡ユネスコ国際文化セミナー**  
テーマ：「日韓メモリー・ウォーズ ―日本人は何を  
知らないか―」  
特別講演：朴裕河氏 (世宗大学国際学部教授)  
パネリスト：朴裕河 (パク・ユハ) 氏  
コーディネーター：上野千鶴子氏 (東京大学名誉教授)  
水野俊平氏 (北海商科大学教授)  
金成玟 (キム・ソンミン) 氏 (北海道大学大学院准  
教授)  
於：福岡市中央区渡辺通  
「電気ビル共創館」カン  
ファレンス 大会議室
- 3 月 30 日 (水) 第 3 回理事会開催  
於：福岡市中央区渡辺通  
「電気ビル共創館」カン  
ファレンス E 会議室



福岡ユネスコ協会の国際文化会議、シンポジウム、セミナー(通年の記録)

International Cultural Exchange Program Sponsored  
by the Fukuoka UNESCO Association

開催年	催し	テーマ
1) 1962	第1回九州国際文化会議	「日本における東西文化の接点としての九州」
2) 1967	第2回九州国際文化会議	「日本近代化と九州の役割」
3) 1971	第1回日本研究国際セミナー	「アジアにおける日本」
4) 1972	第3回九州国際文化会議	「アジアにおける日本」
5) 1974	第2回日本研究国際セミナー	「新しい日米関係を考える」
6) 1977	第4回九州国際文化会議	「戦後33年の日本」
7) 1979	国際シンポジウム	「マスメディアと国際理解を促す諸条件」
8) 1982	第5回九州国際文化会議	「80年代の国際社会と日本」
9) 1983	'83 福岡国際シンポジウム	「都市の国際化」
10) 1984	'84 福岡国際シンポジウム	「国際化と教育」
11) 1985	'85 福岡国際シンポジウム	「国際化とコミュニケーション」
12) 1986	第3回日本研究国際セミナー	「海外における日本研究の課題と展望」
13) 1987	第6回九州国際文化会議	「現代の日本と世界」
14) 1988	東アジア研究・福岡国際文化会議 '88	「一国連大学研究・研修センター誘致推進」
15) 1989	第4回日本研究国際セミナー '89	「日本の近代文学と芸術」—明治期—
16) 1990	第5回日本研究国際セミナー '90	「日本の近代文学と芸術」—大正期～昭和初期—
17) 1991	第6回日本研究国際セミナー '91	「日本の近代文学と芸術」—戦前・戦中・戦後—
18) 1992	第7回九州国際文化会議	「90年代の世界と日本」
19) 1993	第7回日本研究国際セミナー '93	「アメリカにおける戦後日本の政治研究」
20) 1994	第8回日本研究国際セミナー '94	「近代への転換期における藤村文学」
21) 1995	戦後50年記念・国際シンポジウム '95	「戦後50年の日本の文化・社会・ジャーナリズムの思想的変容」

- 22) 1996 福岡国際シンポジウム'96 「日本の近・現代をめぐって  
—日・独近代化の視点から—」
- 23) 1997 第8回九州国際文化会議 「21世紀への課題と展望」
- 24) 1998 第9回日本研究国際セミナー'98 「ロナルド・ドーア教授の日本研究50年」
- 25) 1999 第10回日本研究国際セミナー'99 「ドナルド・キーン教授と日本文学」
- 26) 2000 第11回日本研究国際セミナー2000 「世界における日本研究と加藤周一」
- 27) 2001 第12回日本研究国際セミナー2001 「21世紀の世界と日本の課題」
- 28) 2002 第9回九州国際文化会議 「21世紀の世界と日本の選択」
- 29) 2003 第13回日本研究国際セミナー2003 「国民文学を考える  
—『宮本武蔵』と『竜馬がゆく』—」
- 30) 2004 第14回日本研究国際セミナー2004 「自由主義者 石橋湛山 思想と評論」
- 31) 2005 第15回日本研究国際セミナー2005 「日本近代文学の回顧と展望—21世紀を迎えて—」
- 32) 2006 文化講演と討議 「政治と文学—今世紀の変容に応じて—」
- 33) 2007 創立60年記念国際文化セミナー 「日本の文化と心」
- 34) 2008 福岡国際文化セミナー2008 「続・日本の文化と心—日本語を基座として—」
- 35) 2009 福岡国際文化シンポジウム2009 「いま、アジアをどう語るか  
— 現代化と歴史認識のはざまで —」
- 36) 2010 福岡国際文化シンポジウム2010 「越境するアジアの文化 — 現状と可能性 —」
- 37) 2011 公開講演と学術シンポジウム 「辛亥革命と東アジア」
- 38) 2012 福岡国際文化セミナー2012 「山本作兵衛と日本の近代」
- 39) 2013 福岡ユネスコ文化セミナー2013 「未来に可能性はあるか? —3.11以降の社会構想—」
- 40) 2014 福岡ユネスコ文化セミナー2014 「アジア主義 —その先の近代へ—」
- 41) 2015 福岡国際文化セミナー2015 「日韓メモリー・ウォーズ —日本人は何を知らないか—」

一般財団法人福岡ユネスコ協会は、ユネスコ憲章の理念に基づき、教育、科学、文化を通じて国際理解を深め、地域社会におけるユネスコ活動の進展をはかることにより、世界平和に貢献することを目的として、ユネスコ精神に共鳴する有志が相集い相協力し合って、自主的にユネスコの理念の具体化を計るため、当地域（福岡）を基盤に諸文化活動、並びに国際文化活動を行う民間団体です。

一般財団法人 福岡ユネスコ協会

〒810-0022 福岡市中央区薬院2丁目4-5-702

Tel : 092 (715) 8768 Fax : 092 (733) 1291

E-mail : fukuoka-unesco@krc.biglobe.ne.jp

HP : <http://fukuoka-unesco.or.jp>